

事業名称	スポーツミュージアムの連携によるスポーツレガシーの継承・啓発プロジェクト		
実行委員会	スポーツミュージアムの連携によるスポーツレガシーの継承・啓発プロジェクト実行委員会		
中核館	独立行政法人日本スポーツ振興センター 秩父宮記念スポーツ博物館		
	住所	〒273-0017 千葉県船橋市西浦2丁目5-3(株)ロジ・レックス船橋第一倉庫5階	
	TEL	047-401-1724	FAX 047-433-1560
	ホームページ	https://www.jpnsport.go.jp/muse/	
構成団体	<input type="checkbox"/> 独立行政法人国立文化財機構 東京国立博物館 <input type="checkbox"/> 公益財団法人日本オリンピック委員会 日本オリンピックミュージアム <input type="checkbox"/> 札幌オリンピックミュージアム <input type="checkbox"/> 長野オリンピックミュージアム・エムウェーブ <input type="checkbox"/> 特定非営利活動法人 日本スポーツ芸術協会 <input type="checkbox"/> 中京大学スポーツミュージアム		
事業開始時点の課題分析	<p>秩父宮記念スポーツ博物館は、令和2年度地域と共働した博物館創造活動支援事業「スポーツミュージアムの連携によるスポーツレガシーの継承・啓発プロジェクト」(以下、スポーツレガシー事業)の中核館として、スポーツミュージアムに係る連携ネットワーク構築に向けた取り組みを進めている。具体的にはスポーツに関する資料の収集・保存、公開に関する方法論の確立に向けて、①スポーツミュージアムのネットワーク化、②スポーツミュージアム人材育成プログラムの構築、③スポーツ文化財の保存・活用方法の確立、の3つの事業を実施している。</p> <p>①については、国際学会での発表とシンポジウムの開催(2021年2月オンライン開催予定)により、各スポーツミュージアムの情報共有やこれからの展望について議論した。②については、構成団体の現場当事者や大学生がスポーツミュージアムの日常業務や資料をとりまく現況を共有し、スポーツミュージアムならではの業務の特性について考えることができた。一方、③に係るスポーツ文化財の所蔵調査(現場ヒアリング)を行ったところ、「スポーツ資料」とはどのようなものが該当するのか定義が定まっていないため一般に認知されていないこと、また、資料の収集・保存、活用に関する専門知識が確立されていないこと、を再確認した。このことから、スポーツ資料の収集・保存、活用に係る、持続可能なスポーツミュージアムの連携ネットワークの構築が急がれる。</p>		
事業目的	<p>令和3年度本事業は、令和2年度の目的「スポーツミュージアムが連携することで、日本スポーツ界のレガシーを継承・啓発していく場としてミュージアムが持続的に機能する方法を確立し、文化遺産としてのスポーツレガシーに対する社会全体の共感を醸成していくこと」を継続し、特に、本格的なスポーツミュージアム・ネットワークの立ち上げに向けて「スポーツ資料の保存とアーカイブ化」をテーマとした事業に取り組む。具体的には、①スポーツ資料の収集保存・アーカイブ化についての意識化を図ること、②スポーツ資料とはどのようなものが該当するのかを啓発すること、③スポーツ資料の取り扱いに関する問題意識を定着化すること、④日本全体での取り組みに広げることでスポーツ文化財の制度化に向けた環境整備を図ること、である。</p> <p>令和2年度のスポーツレガシー事業は、スポーツミュージアム関係機関連絡協議会(仮称)を2021年度から立ち上げることを念頭に置いていたが、新型コロナウイルス感染拡大ならびに東京2020大会の延期の影響を受け、遅れが生じている。令和3年度の本申請事業によって、上記4つの目的を実施し基礎固めを行い、2022年度から持続可能なネットワーク体制を構築へ繋げられるようにする。</p>		

<p>事業概要</p>	<p style="text-align: center;">令和3年度文化庁補助事業 「スポーツミュージアムの連携によるスポーツレガシーの継承・啓発プロジェクト」</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 45%;"> <p style="text-align: center;">事業1. スポーツ資料の保存と アーカイブ化に関する検討</p> <p>①保存アーカイブ課題共有ワークショップ（オンライン） ②スポーツミュージアムシンポジウム（オンライン）</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 45%;"> <p style="text-align: center;">事業2. スポーツミュージアムのネットワーク構築と アウトリーチ</p> <p>①国内スポーツ遺産50選 コンテンツ作成 ②東京国立博物館特別展「スポーツNIPPON」展</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="background-color: #e0f0ff; padding: 5px; border: 1px solid #0070c0;">スポーツ資料の収集保存・アーカイブの意識化と方法論の確立</div> <div style="background-color: #e0f0ff; padding: 5px; border: 1px solid #0070c0;">スポーツ資料の普及・啓発</div> </div> <p style="text-align: center; margin-top: 20px;">↓</p> <p style="text-align: center;">・スポーツミュージアム関係機関連絡協議会（仮称）の立ち上げ ・日本全体のスポーツ文化財の制度化に向けた環境整備</p>
<p>実施項目</p> <p>実施体系</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. スポーツ資料の保存とアーカイブ化に関する検討 <ol style="list-style-type: none"> ①オンラインによる保存アーカイブの課題共有ワークショップ（ワークショップ） ②オンラインによるスポーツミュージアムシンポジウム（シンポジウム） ③スポーツ資料の保存とアーカイブ化に関する検討会議（検討会議1） 2. スポーツミュージアムのネットワーク構築とアウトリーチ <ol style="list-style-type: none"> ①「100年後に残したいスポーツ遺産50選」コンテンツ作成（コンテンツ作成） ②スポーツ遺産現地調査（現地調査） ③スポーツ資料の普及・啓発展覧会（展覧会） ④ネットワーク構築とアウトリーチ検討会議（検討会議2）
<p>実施後の 成果・効果等</p>	<p>事業1でオンラインでのワークショップを、事前打ち合わせを含めて計5回実施した。博物館における保存業務について、特に素材の劣化とその対策に関する意見交換の場として、充実した内容になった。連絡協議会立ち上げのための枠組み作りも話題にとり上げ、その必要性をめぐる気運の高まりを確認することができた一方で、ディスカッションの時間を十分には確保できず、実現に向けた具体的な見通しについては課題として残った。また、ワークショップの成果を踏まえてオンラインシンポジウムを開催した。スポーツ資料を所有するミュージアム等に参加を呼びかけ、問題意識をもつ多くの学芸員や研究者らに参加いただいた。特にデジタルアーカイブの運用や専門的知見を共有する制度を望む意見が明らかになった。またリモート環境が全国的に普及したことで当初計画よりコンパクトに実施することができた。</p> <p>事業2では、新型コロナウイルスの感染拡大が止まないことにより、各地現地調査が令和4年度に延期実施した。当初、全国のスポーツ資料の中から50件を選定する形式を想定したが、実施の延期により関係者からの意見聴取を行うことができた。その結果、スポーツ遺産の質的評価といった誤解を招かないために自薦方式のスポーツ遺産紹介テキストを募り、「100年後に残したいスポーツ遺産」のWEBコンテンツの充実に結びつけた。また、東京2020大会の2021年延期に伴って延期となった東京国立博物館との共催による特別展「スポーツNIPPON」展を開催した。スポーツをテーマとした歴史資料展をナショナルミュージアムとの連携で開催できたことで、実物ならではの質感や歴史的背景を実感を持って観覧体験できる場を提供できた。これらの事業実施にあたってはWEBページやデジタル媒体を積極的に活用した。</p>

【事業実績】

概要

本連携プロジェクトは、秩父宮記念スポーツ博物館、日本オリンピックミュージアム、札幌オリンピックミュージアム、長野オリンピックミュージアム、中京大学スポーツミュージアムが連携し、日本スポーツ界のレガシーを継承・啓発していく場としてミュージアムが持続的に機能する方法を確立し、文化遺産としてのスポーツレガシーに対する社会全体の共感を醸成していくことを目指した。

令和3年度事業では、「スポーツ資料の保存とアーカイブ化に関する検討」と、「スポーツミュージアムのネットワーク構築とアウトリーチ」の二つの事業を展開した。「スポーツ資料の保存とアーカイブ化に関する検討」では、保存アーカイブの課題共有ワークショップとスポーツミュージアムシンポジウムを共にオンライン環境を活用して開催した。「スポーツミュージアムのネットワーク構築とアウトリーチ」では、「100年後に残したいスポーツ遺産」のコンテンツ作成とその現地調査、スポーツ資料の普及・啓発を目指した展覧会の開催を実施した。

事業1 スポーツ資料の保存とアーカイブ化に関する検討

実績① オンラインによる保存アーカイブの課題共有ワークショップ

第1回「大学ミュージアムにおけるスポーツ資料の保存と活用」

日時：2021年10月25日（月）10:30-12:00（オンライン）

司会：木村一貫・新名佐知子・青木祐一・近藤順子（秩父宮記念スポーツ博物館）

パネラー：大林太朗（筑波大学体育系 助教）

亀井哲也（中京大学現代社会科学部 教授）



第2回「近現代資料に関する保存科学のノウハウ」

日時：2021年11月30日（火）10:00-12:00（オンライン）

司会：木村一貫・新名佐知子（秩父宮記念スポーツ博物館）

パネラー：段下浩三（アシックス スポーツミュージアム アーカイブ部）

西村忠英（アシックス スポーツミュージアム 館長）

川野辺渉（東京文化財研究所 名誉研究員）



第3回「パラスポーツにおけるスポーツ資料の保存と活用」

日時：2021年12月24日（金）10:30-12:00（オンライン）

司会：青木祐一・木村一貫・近藤順子（秩父宮記念スポーツ博物館）

パネラー：四ツ谷奈津子（社会福祉法人太陽の家・太陽ミュージアム館長）

服部直充（社会福祉法人太陽の家・太陽ミュージアム）

新名佐知子（秩父宮記念スポーツ博物館）



実績② オンラインによるスポーツミュージアムシンポジウム

「スポーツミュージアムのネットワーク構築と資料保存・活用の今後」

日時：2022年2月12日（土）13:00~16:40（オンライン）

進行：青木祐一（秩父宮記念スポーツ博物館）

趣旨説明：木村一貫（秩父宮記念スポーツ博物館）

配信・タイムキープ：村上佳奈子（秩父宮記念スポーツ博物館）

□基調講演「アーカイブズが拓くスポーツの未来」

講師：町田樹（國學院大學人間科学部）

□パネルディスカッション「スポーツミュージアムのネットワーク構築と資料の保存・活用」

モデレーター：栗原祐司（京都国立博物館）

趣旨説明：新名佐知子（秩父宮記念スポーツ博物館）

報告：亀井哲也（中京大学現代社会学部）

大林太朗（筑波大学体育系）

川野邊渉（東京文化財研究所）

服部直充（社会福祉法人太陽の家）

下湯直樹（日本オリンピックミュージアム）

□全体討論「ネットワーク構築に向けた今後の取組み」



実績③ スポーツ資料の保存とアーカイブ化に関する検討会議

第1回 2021年08月23日（月）会場：秩父宮記念スポーツ博物館/オンライン

第2回 2021年11月12日（金） 同 上

第3回 2021年11月25日（木） 同 上

実績①「100年後に残したいスポーツ遺産」コンテンツ作成

スポーツ資料を保存・公開する博物館施設が、博物館活動の持続と充実を目指し、資料の保存と活用についての様々な課題を共有するネットワーク構築のための情報交換の場として、各ミュージアムの代表的なスポーツ資料を紹介するサイト「100年後に残したいスポーツ遺産」を上げた。本プロジェクト参画5館の下記記事からスタートし、順次追加更新していく。



- 秩父宮記念スポーツ博物館 「稲田悦子着用競技用衣装」(1936年)
- 日本オリンピックミュージアム 「第5回オリンピック競技大会 日本語版公式ポスター」
- 札幌オリンピックミュージアム 「1972年札幌オリンピック開催決定となった招致スピーチの音声テープ」
- 長野オリンピックミュージアム 「オリンピックカップ 長野の人々 (The People of Nagano)」
- 中京大学スポーツミュージアム 「ナポレオン針 (蓄音機用針) のケース」

実績② スポーツ遺産現地調査 (現地調査)

- 事前打ち合わせ会議 2022年05月09日(月)
- 同 上 2022年05月10日(火)
- 同 上 2022年05月17日(火)
- 同 上 2022年05月24日(火)
- 同 上 2022年05月31日(火)
- 調査 (大分県別府市) 2022年07月27日(水)
- 調査 (広島県海田町他) 2022年10月27日(木)～28日(金)
- 調査 (福岡県福岡市) 2022年11月08日(火)
- 調査 (沖縄県那覇市他) 2022年11月08日(火)～11日(金)
- 調査 (兵庫県神戸市他) 2022年12月06日(火)～09日(金)
- 調査 (富山県立山町) 2022年12月14日(水)～15日(木)
- 調査 (北海道札幌市他) 2022年12月21日(水)～23日(金)



実績③ スポーツ資料の普及・啓発展覧会 (展覧会)

東京2020オリンピック・パラリンピックの開催にあわせ、東京国立博物館との共催による特別展「スポーツ NIPPON」展を開催した。スポーツをテーマとした歴史資料展をナショナルミュージアムとの連携で開催できたことで、実物ならではの質感や歴史的背景を実感を持って観覧体験できる場を提供し、スポーツ資料の普及と啓発に務めた。

- 東京2020オリンピック・パラリンピック開催記念 特別企画
- 「スポーツ NIPPON」
- 会期：2021年7月13日(火)～2021年9月20日(月・祝)
- 会場：東京国立博物館 平成館企画展示室
- 開館時間：9:30～17:00
- 休館日：月曜日(ただし8/9、9/20は開館)
- 主催：東京国立博物館、秩父宮記念スポーツ博物館、読売新聞社
- 協力：公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会
- 後援：公益財団法人日本オリンピック委員会



実績④ ネットワーク構築とアウトリーチ検討会議 (検討会議2)

- 展覧会
 - 第1回 2021年04月27日(火) 会場：東京国立博物館
 - 第2回 2021年05月14日(金) 同 上
 - 第3回 2021年06月03日(木) 同 上
 - 第4回 2021年06月18日(金) 会場：羽田空港
- コンテンツ作成
 - 第1回 2021年05月14日(金) 会場：秩父宮記念スポーツ博物館/オンライン
 - 第2回 2021年06月10日(木) 同 上
 - 第3回 2021年11月09日(火) 会場：福島県いわき市
 - 第4回 2021年11月24日(水) 会場：中京大学スポーツミュージアム
 - 第5回 2022年02月17日(木) 会場：秩父宮記念スポーツ博物館/オンライン

おわりに

本連携プロジェクトは、スポーツミュージアムに係る連携ネットワークの構築に向けた取り組みとして、スポーツに関する資料の収集、保存、公開に関する方法論の確立を目指し、以上2つの事業を実施してきた。今後もスポーツ資料の収集・保存、活用に係る持続可能なスポーツミュージアムの連携、特に資料のデジタル化とその共有ネットワークの必要性が共有された。本プロジェクトの実績報告書は右WEBサイトで配信している。

